

「校長たより」にアクセスいただいた皆様

「校長たより」にアクセスしていただき、ありがとうございます。当校は明日8日（火）から48日間の3学期が始まります。3学期はまとめの学期とよく言われますが、私は令和7年度の0学期と考えて教育活動に取り組んでいきます。新年も引き続きご指導賜りますようお願いいたします。今回は、次の4つを掲載いたしました。

- ①今年「巳」そして「乙巳の年」
- ②新年のスタートは「お陰様で」の気持ちで！
- ③子どもたちの学び、成長、そしてその先
- ④私たち大人のすべきこと
- ⑤この写真から何を感じますか

お読みいただき、本校の教育活動にご理解いただくとともに、ご指導ご助言いただきますようよろしくお願い申し上げます。

校長 上松 武



令和7年1月7日

チームふれあい 27人の先生方へ  
「なかよく たのしく たくましく」生きる  
子どもの育成を目指して⑱ -0107 職員会議資料-



～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう！幸せにしよう！～

上松 武



今年「巳年」そして「乙巳の年」

- ・令和7年（2025年）の干支は「巳年」です。「巳年」には、「再生と復活」や「神秘と知恵」、「変容」といった意味があるようです。
- ・また、60年に一度巡ってくる「乙巳（きのと・み）」の年でもあるそうです。この乙巳の年は、「変化と革新」や「成長と発展」「チャンス的一年」という特徴があるそうです。
- ・令和4年（2023年）には三施設開所10周年を迎え、次の10年までの折り返し地点に差し掛かりつつあります。
- ・文部科学省が「インクルーシブな学校運営モデル事業」を今年度から進めていることもあってか、この三施設への視察訪問の依頼が絶えません。視察訪問を受けながら、私たちの学校の「よさ」と「次、こうしよう」ということを教えてもらっています。
- ・この「巳年」「乙巳（きのと・み）の年」に、十日町小と培ってきた「共生共育」を十日町・津南地域に広げ、「インクルーシブな教育活動を実践する地域」へ成長発展する、そんな革新的な一年にしていきたいと考えています。

新年のスタートは「お陰様で」の気持ちで！



- ・私は、子どもたちがいて、先生方がいての「校長」です。だから、私がこうして勤められているのは、たくさんの皆さんの「お陰様」なのです。
- ・だから、できることは何でもやろう、後悔しないようにやろう、それをいろいろな局面で覚悟をもってやってきましたし、言葉にも出してきました。



### 単元構成や支援の工夫

- シンプルな活動に、シンプルな手順
- 個に合った課題設定
- 子どもたちからのアクションを待つ見守りや待ちの姿勢
- 「体験する」ことから「体験を自分の力にする」支援（例：支援の引き算）
- 周りの人に喜んでもらうという学習活動への価値づけ

- ・さらに定研では、どのような力を身に付けるといいかについても話し合わせ、次のようなことが出されたようです。

### 目指したい子どもの姿

- 自分から考えて動く力、主体性
- 助けを自分から求めることができること
- 相手の気持ちを考えて行動すること、かかわること

- ・皆さんの1年間の指導支援の結果、「分かって動ける」から「(自分で) 考えて動く」子どもの育成へ、来年度はステップアップし進めていきたいと考えています。
- ・もちろん、これまで行ってきた支援をどの場面でも当たり前のように取り組み、「分かって動ける」姿を目指すことは当校のスタンダードであり、変わることはありません。
- ・その上で、「次に〇〇するといいいんじゃないかな」とか、「〇〇すると周りの人に喜んでもらえるかも」と、自分の考えや想いをしっかりと言語化する「授業途中の振り返り」を取り入れた単元構成や授業改善を行っていきたくと考えています。
- ・この振り返りについては、下の表が参考になると思います。
- ・表の「形成的振り返り」を意図的に授業中できないかと考えています。
- ・例えば、小学部の公開授業で子どもたちがお客さんの意見をその場で取り入れてやり方を変えました。中学部の公開授業では紙工班の生徒たちが試作品の評価を取り入れて作り方を変えました。

振り返りの種類	振り返りの内容
診断的振り返り	これから学習に向かう見通しとしての振り返り ・前提となる知識や概念は分かっているか？ ・学習の目的は？ ・学習の進め方は？
形成的振り返り	学びの途中段階で行う「小さな振り返り」 ・ここまでの達成状況と今後すべきことは？ ・ダイナミックで、学びの進行とともに行われるもの
総括的振り返り	授業の最後に行う、いわゆる「振り返り」 ・学習目標を達成したかというチェックとしては有効 ・しかし、学べなかった時に軌道修正ができない

※出典「めあての提示や振り返りの工夫で、子どもが自ら学ぶ力を育む」伊藤崇達（九州大学大学院准教授）VIEW21 教育委員会版 2019 vol.3

- ・この例が「形成的振り返り＝授業途中の振り返り」に当たり、自分たちでよりよくしていこうと考える学習になっていっているのではないのでしょうか。
- ・このような考え方を取り入れることでこの先、次のことに力を入れていきたいと考えています。

### <令和7年度特に力を入れたいこと>

□毎日の学習活動や様々な交流活動などへの取組から、自分のかんばりに気付き、それを励みに自信を付けていく子どもたちを育てていこう。

(具体的な姿)

- ・自校や十日町小の友達だけではなく、関わりが薄い同世代の仲間と、居住地校や同世代間での交流活動で関わりを持つようとして活動している。
  - ・周りの人からの肯定的評価と合わせて、改善を要する意見などを聞き入れて、次の学習に向かっている。
  - ・準備や後片付けも含み、授業や給食、清掃などに、友達と時々やり方を工夫しながら取り組んでいる。
  - ・「次はこうしたい」と自分の考えなどを相手に伝えながら、実行している。
- ・この先、子どもたちが主体的に自分の学びに向かっていると考えています。

## 私たち大人のすべきこと

- ・新しい年になり、今年度のまとめと新年度の方針や組織づくりの話が進んでいきます。このメンバーで、ふれあいで仕事ができるのもあと3か月です。
- ・この3か月を、「3か月も」ととらえるか、「3か月しか」ととらえるか、人それぞれでしょう。
- ・以前お伝えしたように後期学校評価の結果から、お互いの信頼関係が揺るぎ、小さなミスが大きな事故になっていくのではないかと、私は危機感を感じています。
- ・だから新年のスタートに当たり、皆さんに次のことをお願いしたい。  
**子どもたちの成長を、今よりも一段高いところへ押し上げよう。そうすることで、子どもたちの可能性を今よりも広げよう。このために「一致団結」しよう。**
- ・「あの人と気が合わない」「感情的に受け入れられない」。こんな大人の都合で、子どもたちの成長を阻害したり、子どもたちの未来を狭めたりする職員集団でいたくありません。そこで、新年から力を入れていきたいことを次に示しました。
- ・今日から行動に表していきましょう！



### <令和7年度特に力を入れたいこと>

□自分の授業改善を進めていく過程で、職員一人一人が自分の考えを、相手に聞いてもらえるような関わり方をするように自分を変えていこう

(具体的な姿)

- ・授業者間で互いの思いなどを対話しながら、授業を作り上げていくコミュニケーションを取ろうとする。
- ・まずは相手の考えを聞き入れつつ、自分の考えを発信しながら一致点を見つけ出すコミュニケーションを取ろうとする。
- ・柔らかい「ほんのひと言」を添えながら、楽しく授業づくりを進めるコミュニケーションを取ろうとする。

## この写真から何を感じますか。

- 12月29日（日）、NHK スペシャル「メジャーリーガー大谷翔平 2024」が60分間放映されました。その終わりごろに、球団関係者が撮った一枚の写真が映し出されました。大谷選手と長年ともに歩んできた通訳の方の不祥事が世界中に報道された最中の写真だそうです。
- 私は、ドジャースというチームを象徴するような写真だと思いました。そして、真に仲間のことを思う大人の姿だと心に刺さりました。
- こんな光景が生まれる職員集団を皆さんとつくりたい、そう心から思っています。



Photo by Joh Soohoo @Los Angeles Dodgers. 2024